

「大相撲の立行司になりたい」

中学生の部・Mさんの短期入門の様子です。

(Mさんからの報告書をもとに再構成しています)

入門先：立行司第41代式守伊之助および高砂部屋

期日：8月1日(木)、8月27日(火)～28日(水)

1. 大相撲富山場所(8月1日(木))

支度部屋に伺い、立行司の41代式守伊之助さんと幕内格行司木村元基さんに質問した。1時間もお時間をいただき、行司の仕事の大変さや達成感について知ることが出来た。



例えば、以下のようなことをお聞きした。

- ・行司の仕事は、テレビで見える本場所のような、表に見えるものだけではない。相撲界という「家族の一員」として認識する必要がある。行司は、入門から退職まで、勤めはたせたら約50年である(停年65歳)。周囲と協力し助け合える人でないとやっていけない。

- ・自分のやりたいことを通すのではなく、周りのことをよく見て考えて行動する姿勢がいい。辞める理由は、行司がつらいというのは無い。部屋がつかなくて辞める。

- ・行司には定員があり(45名)、採用年限があるため、なりたいなら早めに相談して欲しい。窓口は、各親方である。

- ・空きを待つ必要があるが、なかなか難しいと思う。日頃の学業にきちんと取り組んでほしい。

全体を通し、集団行動の難しさや今の自分に足りないことも知ることが出来た。



横綱土俵入り後に式守伊之助さんと2ショットを撮る時間をいただき、がちり握手して「がんばってくださいね」とお声がけいただいたのは心からうれしかった。

(まとめ)

この体験により、今まで以上に行司という仕事に興味を持つことができた。今回知ることが出来たことを、これからの生活や将来につなげて行きたい。

2. 高砂部屋（8月27日（火）、28日（水）の2日間）

・初日（27日（火））

午後からの入門であった。幕下格行司木村悟志さん(右下図右の方)に行司の仕事について説明いただき、仕事の手伝いをした。



まずは、大相撲秋場所のための新しい番付表に高砂親方のお名前や朝乃山の四股名のハンコを押し、押印後に折る作業の手伝いである。単純作業であるが、長時間同じ姿勢であったため大変であった。

次にやったのは、部屋の掃除である。ゴミ処理や、掃き掃除などを行った。その後、後援会の方からのミネラルウォーターの差し入れを運搬したが、30箱にもなる水を何往復もして運ぶのは重労働だった。



最後には、入門の2日前の番付発表で関取になった玉木改め朝玉勢の稽古まわしに四股名を書くところを見学した。割り箸でまわし表面の凹凸を無くし、筆に墨をたっぷりと含ませて相撲字で書き上げていた。

・2日目（28日（水））

まずは朝稽古を見学した。最初の方、幕下以下力士の稽古で、ウォーミングアップ後取組形式、その後に関取の稽古である。関取の稽古は、幕下以下とは体格の差もあり、迫力があつた。



朝稽古終了後、相撲字の練習をさせていただいた。「山」「川」「花」「朝乃山」を練習し、難しいながらも木村悟志さんに教えていただけ、そこそこ上手に書けたように思う。また、自分の名前も相撲字で書いていただいた。

(まとめ)



高砂部屋(左)での2日間の短期入門は、木村悟志さんと話しながら作業したり、力士の方が仲良くしてくださったりして、とても楽しく過ごすことが出来た。これからも夢に向かって諦めず、がんばりたい。

